

# 決 算 報 告 書

自 平成 28 年 4 月 1 日  
至 平成 29 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

電話番号 090-9631-1610  
住 所 宮城県栗原市若柳上畑岡大立85-3

法人名: 特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

## 活動計算書

2016年 4月 1日 ~ 2017年 3月 31日 まで

(単位:円)

科目	金額	
<b>I 経常収益</b>		
1. 受取会費		
正会員受取会費	110,000	
賛助会員受取会費	0	110,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	0	0
3. 受取助成金等		
受取民間助成金	5,167,000	5,167,000
4. 事業収益		
ステーション事業収益	1,796,627	
バイオマス普及事業収益	2,936,689	
工房運営事業収益	4,115,091	8,848,407
5. その他収益		
受取利息	7	7
<b>経常収益計</b>		<b>14,125,414</b>
<b>II 経常費用</b>		
1. 事業費		
(1)人件費		
賃金	3,571,208	
法定福利費	665,035	
臨時雇用費	15,000	
福利厚生費		
人件費計	<b>4,251,243</b>	
(2)その他経費		
売上原価	1,121,929	
外注費	279,342	
租税公課	79,125	
旅費交通費	260,801	
通信運搬費	179,586	
支払手数料	81,503	
車輛費	287,985	
減価償却費	276,553	
消耗品費	546,906	
水道光熱費	988,505	
雑費	57,445	
整備費	0	
地代家賃	1,840,000	
賃借料	0	
その他経費計	<b>5,999,680</b>	
<b>事業費計</b>		<b>10,250,923</b>
2. 管理費		
(1)人件費		
給料手当	982,000	
法定福利費	602,796	
福利厚生費		
人件費計	<b>1,584,796</b>	
(2)その他経費		
外注費	27,000	
租税公課		
旅費交通費		
通信運搬費	5,051	
支払手数料	1,812	
減価償却費		
会議費		
消耗品費	85,034	
水道光熱費		
雑費	7,946	
その他経費計	<b>126,843</b>	
<b>管理費計</b>		<b>1,711,639</b>
<b>経常費用計</b>		<b>11,962,562</b>
当期計上増減額		<b>2,162,852</b>
<b>III 経常外費用</b>		
過年度損益修正損		<b>74,662</b>
<b>経常外費用計</b>		<b>74,662</b>
<b>当期正味財産増減額</b>		<b>2,088,190</b>
<b>前期繰越正味財産額</b>		<b>△ 12,911,085</b>
<b>次期繰越正味財産額</b>		<b>△ 10,822,895</b>

法人名： 特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

## 貸借対照表

2017年 3月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金			
手元現金	1,102,592		
ゆうちょ銀行	494,171		
未収金			
流動資産合計		1,596,763	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
什器備品	893,858		
有形固定資産計	893,858		
固定資産合計		893,858	
資産合計			2,490,621
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
預り金A(所得税)	30,260		
預り金B(住民税)	6,700		
前受年会費 (26年～27年:1名分)			
流動負債合計		36,960	
2. 固定負債			
役員借入金	13,000,000		
固定負債合計		13,000,000	
負債合計			13,036,960
<b>III 正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産		△ 12,911,085	
当期正味財産増減額		2,088,190	
正味財産合計			△ 10,822,895
負債及び正味財産合計			2,214,065

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

- (1) 固定資産の減価償却の方法  
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。  
無形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。
- (2) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	ステーション事業	バイオ普及事業	工房運営事業		事業部門計	管理部門	合計
<b>I 経常収益</b>							
1. 受取会費					0	110,000	110,000
2. 受取寄付金					0		0
3. 受取助成金等	3,260,000		1,907,000		5,167,000		5,167,000
4. 事業収入	1,796,627	2,936,689	4,115,091		8,848,407		8,848,407
5. その他収益					0	7	7
<b>経常収益計</b>	<b>5,056,627</b>	<b>2,936,689</b>	<b>6,022,091</b>	<b>0</b>	<b>14,015,407</b>	<b>110,007</b>	<b>14,125,414</b>
<b>II 経常費用</b>							
(1) 人件費							
給料手当			3,571,208		3,571,208	982,000	4,553,208
臨時雇用費	15,000				15,000		15,000
福利厚生費					0		0
法定福利費	△ 2,852		667,887		665,035	602,796	1,267,831
<b>人件費計</b>	<b>12,148</b>	<b>0</b>	<b>4,239,095</b>	<b>0</b>	<b>4,251,243</b>	<b>1,584,796</b>	<b>5,836,039</b>
(2) その他経費							
売上原価	10,785	1,027,439	83,705		1,121,929		1,121,929
外注費	35,820	8,000	235,522		279,342	27,000	306,342
租税公課	39,525		39,600		79,125		79,125
旅費交通費	147,908	500	112,393		260,801		260,801
通信運搬費			179,586		179,586	5,051	184,637
支払手数料	3,680	1,080	76,743		81,503	1,812	83,315
車輛費	163,265		124,720		287,985		287,985
減価償却費	6,004	6,017	264,532		276,553		276,553
会議費					0		0
消耗品費	239,004		307,902		546,906	85,034	631,940
水道光熱費			988,505		988,505		988,505
雑費	6,177		47,148		53,325	7,946	61,271
整備費					0		0
地代家賃			1,840,000		1,840,000		1,840,000
賃借料					0		0
寄付金			4,120		4,120		4,120
<b>その他経費計</b>	<b>652,168</b>	<b>1,043,036</b>	<b>4,304,476</b>	<b>0</b>	<b>5,999,680</b>	<b>126,843</b>	<b>6,126,523</b>
<b>事業費計</b>	<b>664,316</b>	<b>1,043,036</b>	<b>8,543,571</b>	<b>0</b>	<b>10,250,923</b>	<b>1,711,639</b>	<b>11,962,562</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>4,392,311</b>	<b>1,893,653</b>	<b>△ 2,521,480</b>	<b>0</b>	<b>3,764,484</b>	<b>△ 1,601,632</b>	<b>2,162,852</b>

3. 用途等が制約された寄付等の内訳

(単位:円)

内 容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備 考
1.森林山村多面的機能發揮対策交付金	0	1,760,000	1,760,000	0	
2.宮城雇用創出助成金		937,000	937,000	0	
3.労働局業務改善助成金		970,000	970,000		
4.パルシステム生協助成金		1,500,000	1,500,000		
<b>合 計</b>	<b>0</b>	<b>5,167,000</b>	<b>5,167,000</b>	<b>0</b>	

4. 固定資産の増減内訳

固定資産の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	期首取得価額	取得	当期減価償却額	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産							
機械用動力設備(工房運営事業)	400,000		33,329		234,711	△ 198,618	201,382
デモ用薪ストーブ1台(バイオ普及事業)	200,000		6,017		16,305	△ 189,712	10,288
スライドソー(工房運営事業)	2,300,000		173,780		470,948	△ 2,002,832	297,168
スライドソー三角定規(工房運営事業)	160,000		12,089		32,760	△ 139,329	20,671
簡易製材機(工房運営事業)	600,000		45,334		122,855	△ 522,479	77,521
手動ウインチ 1台(ステーション事業)	126,000		6,004		16,276	△ 115,728	10,272
							0
							0
<b>合 計</b>	<b>3,786,000</b>	<b>0</b>	<b>276,553</b>	<b>0</b>	<b>893,855</b>	<b>△ 3,168,698</b>	<b>617,302</b>
			<b>管理部門</b>	<b>バイオ普及事業</b>	<b>工房運営事業</b>	<b>ステーション事業</b>	
			<b>当期減価償却額</b>	<b>6,017</b>	<b>264,532</b>	<b>6,004</b>	

5. 借入金の増減内訳

借入金の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
役員借入金	14,100,000	0	1,100,000	13,000,000

※前期預かり金未計上分を過年度損益修正損にて計上

法人名： 特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

## 財産目録

2017年 3月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金			
手許現金	1,102,592		
ゆうちょ銀行	494,171		
未収金 (環境基金・宮城県)			
<b>流動資産合計</b>		<b>1,596,763</b>	
<b>2. 固定資産</b>			
(1) 有形固定資産			
什器備品			
機械用動力設備	201,382		
デモ用薪ストーブ 1台	10,288		
スライドソー	297,168		
スライドソー三角定規	20,671		
簡易製材機	77,521		
手動ウィンチ 1台	10,272		
<b>固定資産合計</b>		<b>617,302</b>	
<b>資産合計</b>			<b>2,214,065</b>
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
預り金A(所得税)	30,260		
預り金B(住民税)	6,700		
<b>流動負債合計</b>		<b>36,960</b>	
<b>2. 固定負債</b>			
役員借入金			
理事1名より	13,000,000		
<b>固定負債合計</b>		<b>13,000,000</b>	
<b>負債合計</b>			<b>13,036,960</b>
<b>正味財産</b>			<b>△ 10,822,895</b>

# 事業報告書

自 平成 28 年 4 月 1 日  
至 平成 29 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

電話番号 090-9631-1610  
住 所 宮城県栗原市若柳上畑岡大立85-3

# 平成29年度事業報告①

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

## 1.事業総括

平成22年4月にNPO法人を立上げ丸7年が経過しました。本報告書では、平成28年度決算及び28年度に実施した事業の概略についてご報告申し上げます。

### 1. 28年度決算について

平成28年度決算は、工房立上げてから初めて単年度にて200万円強のプラスをを計上することができました。厳密には、平成24年11月に復興関連補助金を活用して「間伐材工房 元樹」を立ち上げ、工房の家賃や光熱費・スタッフ人件費等、法人の運営に際しそれまでは無かった多額の固定費が毎月発生するようになりましたが、翌年3月の決算は補助金にて固定費が賄えた為プラスでした。しかし、その後3年間は毎年大きな赤字を計上し、累積赤字は1,400万超となっていました。

例年年度始めは、収入に繋がるようなものがない状態でスタートし、唯一平成25年から認定を受け28年度が最終年度である、林野庁の森林山村多面的機能発揮対策交付金が約束された収入部分ですが、例年1回目の交付は8月を過ぎる為、且つその交付金概算払い分をもらう為には、それなりの量の森林整備活動を実施していなければならず、毎月の固定費含めどうやって経費を捻出するかで毎年頭を抱えていました。しかし今年は年度スタート早々の、工房への大口の木製品の発注があり、正式な受注契約に繋がりました。その受注は、1月に話が持ち上がり担当責任者レベルで製作スタートのGOサインが出て、必要な原材料を準備し製作をスタートした直後に、発注元の一方的な都合でドタキャンになった経緯がある受注でした。その為、正式契約後着手金の支払いを条件に契約しました。最終的に、追加発注が年度内に2回あり、27年度の幼保施設からの可動棚同様受注額も大きく、当面の経費をまかなえる目処がスタート早々着きました。

最終的に、28年度も1千万超えの支出は計上しましたが、収入がそれを大きく上回りました。ステーション事業(森林整備)・バイオ普及事業(薪ストーブの普及)・工房運営事業(木育活動含む)の全ての事業が昨年を上回り、事業収益が27年度572万円に対し28年度885万円と前年対比154%増、助成金収入も27年度215万に対し28年度は516万円と240%増となりました。ここ3年間、毎年役員借入金が発生していましたが、本年度は借入することなく、逆に110万円を返済することができました。

ただ増加分の中には、29年度事業活動分として28年度分で計上している民間助成金があり、それを除くとそれほど大きなプラスではないのが現実ですが、事業収益が伸びたのは大きな収穫です。

29年度も良い流れがそのまま続いており、新しくスタートする事業が計画通り進めば(11月には判明)今年同様良い結果で終われそうな状況が現時点で続いています。

最後に個人的なことですが、生まれて間もない頃から15年間生活を共にし、木育イベントでも子供達に大変可愛がっていただいた我が家の愛犬「シーちゃん」が遠い空へ旅立ちました。普段全く泣くことがないシーちゃんでしたが、よほど苦しかったのか最後大きく泣いた後私の腕の中で逝きました。



亡くなる直前のシーちゃん(29年1月1日)

# 平成29年度事業報告②

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

## 2. 森林整備保全事業について

林野庁「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」事業は4年目の最終年度を迎えました。南三陸町での森林保全事業は、28年度末にて丸5年を経過しました。南三陸町の森林は、森林賃貸借契約の5年間が満了し、山主さんの意向で収益を得るために伐採規模を大きくしたいとの希望があり、契約の更新には至らず28年度で終了になります。また、多面的事業で実施してきた工房近くの畑岡地域の竹林整備も今年度で終了になります。杉については、定期的な出荷の他小径木等の残材も極力工房に運び活用してきましたが、竹林整備では出口となるべき活用方法を見つけられず、整備しただけで終了しました。笹が背丈を越える高さで密集していましたが、2年間でほぼ全域の笹除去は完了し明るい広葉樹林に変貌しました。林内全体に光が入って見違えるほど明るくなり、継続的に手を加えていけば将来的にいい雑木山になる余地はありそうですが、その可能性はゼロに近いと思われます。私たちも、法人を運営し活動を拡大してゆくためには、出口の見えない活動に関われないのが現状で、残念ながら南三陸同様今年度で終了となります。丸5年間試行錯誤を繰り返し、重機等使わなくても、集材含めた小規模自伐型林業の施行が可能な事及び、そのノウハウを高いレベルで吸収できたと自負しています。

28年度は素材生産だけで、材積134m<sup>3</sup>出荷し1,704千円の売上を計上、材積・出荷額とも前年比150%以上上回り、素材出荷以外でも、大径木の園庭資材として10t車1台分の販売(通常出荷単価より高い)や、金額は少額ですが杉枝や丸太コンロも需要があり、確実に前に進んでいる事を実感できた年でした。そして、ありがたい展開もありました。スタート早々の4月、愛知県尾張旭市から青山さんという、樹木医で現在は特殊伐採の仕事をしている方から、活動のお手伝いをしたいとの連絡を受け、その日の内に栗原まで来られ、翌日からほぼ10日間南三陸の間伐や集材作業を手伝っていただきました。宿泊や食事を含め完全なボランティア(無給)です。最終日は、スタッフみんなで、工房にて南三陸の海の新鮮な魚で作る手巻き寿司をメインに、生春巻きやタコス等法人得意の料理でおもてなしし盛り上がりました。メール等で何度か連絡を取り合っており、いつかまたご縁があればと思っています。

また、念願であった活動車両、それも1.5tのトラックを無理をして導入しました。走れるまでにはそれなりにかかりましたが、林地での集材に威力を発しており、集材効率が大幅にアップしました。集材用のウッドキャップも、購入ではなく地元企業に依頼し、型おこしから成形し5台のウッドキャップを使えるようになりました。

28年度中に、29年から取り掛かる新たな事業も確定しました。28年秋から度々現地を訪ね準備を進め、理事会・臨時総会を経て、岩手県岩泉町の広葉樹林にて、原木しいたけ用ホダ木生産に着手します。森林整備活動の場所は岩泉町に移し現地事務所も新設します。同じ森林ですが、広葉樹林・ホダ木生産という初めて経験する施業ですが、南三陸町・畑岡での経験が活かせると思っています。今まで以上に勉強している最中です、今後定期的にHPに活動状況をアップしてゆきますのでご覧ください。

トラックでの効率UPの集材風景



栗原市畑岡地域の整備後の風景



仙台市認定こども園への大径木搬入



発注製作の集材用ウッドキャップ



# 平成29年度事業報告③

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

## 3. 「間伐材工房 元樹」の運営について

工房が稼働してから4期目の年となりました。本年度は、様々な形で工房の稼働が進展しました。一昨年に大幅リニューアルしたホームページを通じての新規の製作依頼も、複数受注に繋がり事業売上げも400万円を超えました。千葉県にある電力事業に参入した企業からのノベルティー用貯金箱の大口受注の他、みやぎ生協からの統一募金箱の全店分受注、その募金箱を見た山形の生協からの募金箱受注等、前半だけで大口の受注が続き、森林整備と共に年末まで工房はフル稼働という今までにない状況で進みました。

大口以外にも、毎年発注をいただいている幼保施設の子供達の、運動会用の木のメダル製作や、工業者からの留め加工板の発注、木のお風呂の試作品製作用板の発注、昨年に続き「キリストこども市」で販売する作品製作用板や枝の発注等、今までなかったような注文も入り始めました。

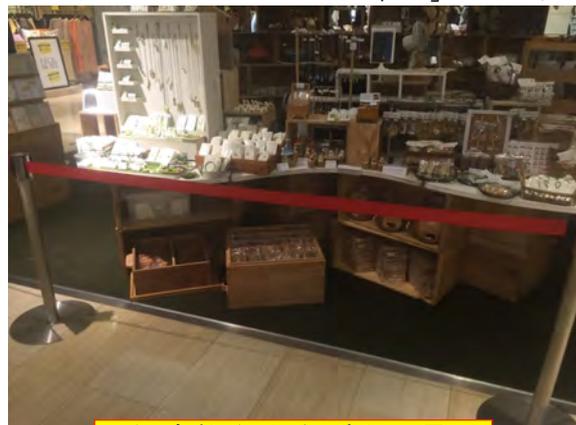
工房で製作した木工品は、4月の仙台市新緑祭やキリストこども市・木工市等年に数回程度が今までの常でしたが、28年度初めてHPサイトからのオーダーも数件入りました。



大口受注の貯金箱&募金箱

ウッドツリー改良版

28年は、工房で製作してきた木工品の販売ルートで、二つの新たな展開がありました。1つ目は、JR仙台駅前にある大型商業施設で、毎年お盆期間前後約2週間開催されている「仙台みやげ物展」への商品の展示販売の機会を得たことです。イベントを主催している方と縁あって、出店の機会を得ました。平日でも人の流れがある施設での販売で、どんなものか期待と不安が半々でしたが、テーマは「かわいい・オシャレ」がメインであり、基本的なスタンスの違いを実感、いい経験でした。



28年度仙台みやげもの展示

二つ目は、仙台市内に3店舗を展開している、ドイツや北欧の木の玩具専門店との出会いです。キッカケはHPを見て連絡があり、当会の活動に賛同。シュタイナー教育に基づいた品揃えで商品を販売する一方、多方面の企業や団体からのイベント要請が多く、店舗販売用オリジナル商品の開発と、イベント用の遊具や玩具の製作相談をいただき、既存製作品の他オリジナル製作品の発注等多くのオーダーを短期間にいただきました。今後も、商品開発他連携して活動する予定です



オーダー製作品：ウッドカーテン



オーダー製作品：プレイスタンド



オーダー製作品：木製玉おどし

# 平成29年度事業報告④

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)



## 4. 木育活動について

28年度は、自主開催の木育活動も含め、平均すると月1回のペースで活動することが出来ました。特に今年から新しくメニューを考え実施した「森遊び」には、お子さんだけで延50名近くに達し体験メニューも好評でした。森の自然の地形をそのまま生かし、急斜面を登ったり、沢を越えたりの体験の他、体験林業として、伐倒だけでなく集材や道具・機械を使う体験も盛り込みました。体験場所までの移動に、トラックの荷台に掴まるロープをピンと張り、木の生い茂る林道を移動する内容も毎回好評でした。安全だけは最優先で担保する為、子供用のヘルメットも20名まで対応できるよう追加し、集材用ロープを使い、丸太橋渡り・崖登り・鉄棒・綱渡りのメニューを実施。昼過ぎまで活動した後は、近くにあるトイレ・煮炊き・水場の施設が整った穴場のキャンプ場(無料)にて、鯉のタタキを作ったり、具沢山の芋煮を作ったりと、2時間以上の時間を過ごします。他にも、小学校への出前講座や工房での地域子供会活動・園外保育受入等、今後も更に活動を広めてゆく予定です。



木育活動の画像。「森遊び」実施場所の近くには穴場のキャンプ場があり、美味しい体験も満喫。

## 5. 薪ストーブ普及活動について

28年度は、久しぶりに4台の受注契約がありました。内1台は他社製の薪ストーブですが、煙突部材や設置工事は当会で受け、年度内に2台の煙突設置の先行工事を実施しました。4台とも、薪ストーブを設置し工事完了は6月中旬から7月になる予定です。今回の4台の内2台の煙突は、普段使っているφ200ではなくφ250の煙突で、ほぼ2年ぶりの工事にて間違いがないよう入念に進めています。普及事業の収益も前年がほぼゼロだった為、300%以上のアップになりました。毎年、この位のペースで普及が進むよう、特に29年度からは広葉樹の薪が大量に調達できる為、今までとは少し違った形で進めてゆこうと思っています。



石巻市内にある砕石生産事業をしている会社の新社屋に、3台の薪ストーブを設置、煙突先行工事

## 6. 28年活動総括

全ての活動に新たな展開の兆しが見え始めた1年でした。夫々の活動が全て連動しており、木育活動から薪ストーブ普及に繋がったり等全ての活動が上手く繋がった成果だと実感しています。また、HP効果は予想以上に高いことも実感し、28年8月以降は鮮度の高い情報発信を心がけています。昨年秋から、29年新規事業に向け岩泉町に足を運び準備を進めてきました。更なる飛躍を目指してゆきます。



28年8月の台風10号から10日程経過後の林内の画像、倒された流木が被害を拡大し作業道が挟られ川化

